

三重大大学の対応要領（南海トラフ臨時情報発表時）

ケース	1	2	3
概 要			
様 相 と 脅 威	・ M8クラスの地震が発生してトラフの東半分が割れる。 ・ 震源の深さが100Km未満の場合津波が発生する。 ・ 巨大地震が発生する可能性が高い	・ M7クラスの地震がトラフ内で発生 ・ 震源の深さが100Km未満の場合津波が発生する。 ・ 巨大地震の兆候となることもある。	プレート境界に異常な滑りの兆候が確認できた。
政 府 考 え	1 巨大地震発生の可能性が高い 2 約1週間の避難が必要となる。	1 避難の呼びかけはしない。 2 日頃の備えを強化する。	1 避難の呼びかけはしない。 2 日頃の備えを強化する。
三重大 の 対 応	（津波が来ると認識） 津波避難基本計画に基づき行動します。 ① 搜索と垂直避難を行います。 ② 津波警報の解除まで学内に待機します。（2日程度） ③ 解除後、2次避難します。（当面、高野尾農場に本部と帰宅困難者を収容します。） ④ 大学を休講とします。 三重大対策本部が授業再開の時期要領を決めます。 ※必要事項はANPICで示す。	1 津波警報が出た場合 ケース1に準じて対応します。 2 津波警報がない場合 ① 人的・物的被害を確認します。 ② 臨時情報2号が「更なる脅威の高まり」を示唆する場合は大学を一定期間休講します。（休講期間は、三重大学災害対策本部が決定します。） ③ 教職員は、施設の復旧と安全化を行います。 ④ 授業再開は、被害の程度と今後の脅威を考慮し決定します。 ※必要事項はANPICで示す。	1 臨時情報1号には、対応しません。 2 臨時情報2号が「警戒を要する。」と発表した場合 ① 当日のみ休講します。 学生は帰宅し、自助の準備を強化します。 ③ 教職員は、学内の更なる安全化を行います。 ④ 翌日以降は、不測事態に対処できる態勢で授業を再開します。 ※必要事項はANPICで示す。